

ロータリーEクラブ (Electronic Club)

ロータリーEクラブは、直接顔を合わせるよりも、主にインターネット上で例会を開く(RI細則第1条)。Eクラブは、通常のロータリークラブと同様に、奉仕プロジェクト、募金行事、親睦の活動に取り組み、RIの加盟会員としてのすべての権利、特権、義務を有する。(2010年手続要覧P3 第一章ロータリークラブより抜粋)

Eクラブの背景

RI理事会は、2000年に既に「ロータリークラブ新モデル」と呼ばれる3年間(2001～2004年度)の試験的プロジェクトにロータリークラブの参加を招請する決定を下しました。

2001年規定審議会は、この種の実験を許可する制定案を採択しましたが、そのプロジェクトの狙いは、ロータリークラブが新しい考えを生み出すことを奨励するものでありました。RI理事会は、参加クラブの体験を観察し、継続的に報告するシステムを構築したわけですが、2004年RI理事会は、プロジェクトを十分に評価するため、さらに多くの体験を得ようと、もう3年このプロジェクトを延長することを提案し、2004年規定審議会においてこれが採択されました。

この結果、新モデル試験的プロジェクトは、革新的な会員増加と管理運営のアイデアを試す目的で、上限200のロータリークラブが参加する、_年間の試験プロジェクトとなりました。

試験的プロジェクトは、将来においても、ロータリーが第一級の人道的奉仕団体であり続けるため、新しいアイデア・方法やクラブの組織構造を試験するためのプロジェクトであります。この試験的プロジェクトに参加するロータリークラブは全面的に機能し続けますが、標準ロータリークラブ定款で規定されている義務がいくつか免除されたものとなっております。

Eクラブ(当時はサイバークラブ)もこのような試験的なプロジェクトの一つとして2001年9月の理事会で採用されたものです。

その後、2002年1月、インターネットによるクラブRotary e-Club One・D540が世界で初めて誕生しました。さらに、2004年のRI規定審議会において、Eクラブへのメークアップが可能となり、2010年のRI規定審議会において、1地区2つまでEクラブ設立が認められ、EクラブはRIの正式なロータリークラブとなりました。

さらに、2013年のRI規定審議会では各地区におけるEクラブの制限数がなくなるとともに、所在地域は全世界であってもよいし、クラブ理事会で自由に決定してもよいこととなりました。

2015年6月現在、日本において本格的なEクラブとして日本ロータリーEクラブ

2650(英語名:Rotary E-Club of 2650 2011年6月30日認証) はじめ11クラブが活動しています。<http://rotaryeclub2650japan.org/>

Eクラブの経過

- ① 2001年4月 RI規定審議会
試験的プロジェクトの承認
- ② 2001年9月 RI理事会
Eクラブを試験的プロジェクトとして支援
- ③ 2002年1月 世界初のEクラブ誕生(サイバークラブ・Rotary E-Club One・D5450
誕生)
- ④ 2004年6月 RI規定審議会
Eクラブへのメイクアップ可能
- ⑤ 2007年4月 RI規定審議会
Eクラブの廃止Eクラブへのメイクアップを認めない
提案すべて否決
- ⑥ 2010年4月 RI規定審議会
1地区2つまでEクラブ設立を認める
- ⑦ 2013年4月 RI規定審議会
各地区のEクラブの制限数がなくなる

世界と日本のEクラブ

全世界 259クラブ(51か国・地域:2015年7月6日現在)

USA…36 インド…31 台湾…29 韓国…25 ブラジル…18
イタリア…12 日本…11 タイ…9 ドイツ…8 オーストラリア…8
フィリピン…7 アルゼンチン…4 メキシコ…4 イギリス…3 香港…3
カナダ…3 フランス、ベルギー、コロンビア、トルコ、シンガポール、南アメリ
カ、ロシア、スエーデン、スイス、ウルグアイ、ベネゼイラ…各2

日 本 国内11クラブ(2015年6月末現在)

- ・日本ロータリーEクラブ2650
- ・Rotary E-Club Sunrise of Japan
- ・ワールド大阪ロータリーEクラブ
- ・東京米山ロータリーEクラブ2750
- ・福山ロータリーEクラブ2710
- ・北海道2500ロータリーEクラブ
- ・HYOGOロータリーEクラブ
- ・愛知ロータリーEクラブ
- ・東京ピースウィングロータリーEクラブ
- ・2730 ジャパンカレントロータリーEクラブ
- ・かながわ2780ロータリーEクラブ

Eクラブの運営方法

Eクラブとは電子的な通信手段を通じて会合するロータリークラブです。

ロータリーの新しいモデルクラブであるEクラブは、インターネット上にあり、毎週1回、クラブのウェブサイト上に参加型の活動を載せることによって、定期の会合を開きます。会員は、参加型の活動が掲載された週間以内にこの活動に参加すれば、Eクラブの例会に出席したものとみなされます。

会員は、会費を支払い、各種の奉仕プロジェクトを実施しており、ウェブサイト为例会場として利用するという以外は、ほかのクラブと同じように機能します。

オンラインでの例会中、参加者同士が互いの顔を見たり、声を聞いたりするため、Eクラブの会員はマイクとウェブカメラを使用することができます。

Eクラブには、すべてをオンラインで行うクラブと、部分的にオンラインを利用するクラブとがあります。部分的にオンラインを利用するEクラブでは、会員同士が直接顔を合わせる従来のクラブと同様に会合や親睦活動が行われています。

クラブ会員の義務として、地元の社会奉仕プロジェクトに参加する会員も多数おります。(RI資料より抜粋)

Eクラブの例会

ロータリーのEクラブは、さまざまな例会の方法で行われます。

ウェビナー ビデオ会議

メッセージボード チャット(雑談、おしゃべり)

スカイプなどを利用(インターネット電話)

リアルタイムのコミュニケーションを図っています。

- 例会の前に、クラブの代表者がその週の例会の内容を掲載しておき、例会当日にその内容について会員が話し合ったり、プロジェクトの計画を立てたりしています。
- Eクラブによっては、オンラインでの例会を補足するため、実際に顔を合わせる例会を開いているところもあります。

Eクラブの参加者

事業、専門職業、地域社会のリーダーで、(体の不自由、遠距離、多忙なスケジュールなどの理由により) 毎週の例会に物理的に行くことができないという人にとって、Eクラブは、例会出席を満たし、奉仕プロジェクトを実施し、ロータリーの親睦に参加できる選択肢となります。通常のロータリークラブの例会に欠席したロータリアンも、時折、オンラインでEクラブの例会に出席してメイクアップをすることができるため、あらゆる会員にとっても貴重な存在となります。

Eクラブの会員となるには、ウェブサイト上の情報をたやすく探せる能力など、基本的なインターネット利用の能力が必要とされます。また、会員がほかの会員の個人情報などを漏らしてしまうことのないよう、オンラインでのプライバシー保護の原則といった実用的知識も備えていなければなりません。

さらに、クラブの創立会員のうち、少なくとも一人は、クラブのウェブサイトのデザインと管理に熟達していることが極めて重要です。この会員は、以下の必要条件すべてを満たすウェブサイト構築できるだけの経験を備えている必要があります。

出典:これだけは知っておきたい「ロータリーの基礎」:第4版編集者:杉田博)



連絡先:

日本ロータリーE クラブ2650 (Rotary E-Club of 2650)
 国際ロータリー第2650 地区(京都府・福井県・滋賀県・奈良県)
 創立:2011年6月20日(RI加盟認証:2011年6月30日)
 ホームページ: <http://rotaryeclub2650japan.org>
 Eメール: info@rotaryeclub2650japan.org
 例会: 毎月曜日:12:00~(ホームページ上)